

業務部速報



No. 71

発行 24. 3. 4

JR東労組 業務部

24
春闘

申15号 2024年度賃金引き上げ等に関する申し入れ 申16号 2024年度夏季手当に関する申し入れ 第2回団体交渉③

□主な組合の主張 ■主な会社の回答

【論点】 第3四半期決算について

□第3四半期決算はすべてのセグメントが増収増益となっている。単体の営業収益は1兆4575億円（対前年1936億円増）、運輸収入は1兆2610億円（対前年2028億円増）となり、コロナ前の約9割まで回復した。この回復は職場の努力の成果である

■足元の業績は社員の努力で積み重ねられたと会社も認識している。その要素も含めて、社内の動向、経営環境を様々なことを勘案して決めていく

□夏季手当の重要な判断要素として営業利益が2297億円（対前年1475億円増）と279%の増加となっている。夏季手当にしっかり反映させるべきだ

■社員の頑張りの成果である。この先も利益をきちんと確保できる体質が必要である。そういったことも考えながら新賃金や夏季手当を決定していく

【論点】 業績予測の上方修正について

□業績予測の上方修正は新賃金と夏季手当を決定する好材料ではないか

■新賃金と夏季手当判断材料の一つにはなる

□好材料になるのか

■評価や判断はそれぞれある

□それぞれあるのか。業績を上方修正した各系統の努力があるのではないか。好材料にならないのか

■他の要素も含め総合的に勘案し決めていくものである

□第1回交渉で、組織再編や融合と連携等で経営体質が強化されたと述べられた。昨年の交渉との大きな変化だ。それは職場努力の結果である。今回の賃上げならびに夏季手当の重要な要素だ

■確実に経営体質が強化されてきた。基準内賃金の引き上げは中長期的に影響が大きい。中長期的の見通しを見ることと経営体質、足元の動向踏まえしっかりと評価していく

【論点】 足元の動向について

□申12号交渉で、3月までの収入は議論できると回答された。2月の鉄道営業収入はどうか

■2月の鉄道営業収入はコロナ前99.4%となっている

□定期外の中長距離の対2018年度はどうか

■100%程度

□好調な足元の動向を好材料にすべき

■利用は戻っている

【論点】 中長期の見通しについて

□中長期について、人口減少やライフスタイルの変化など厳しい環境を乗り越えるための「変革2027」がある。数値目標に対する鉄道事業の進捗状況はどうか

■しっかり進んでいる

【論点】 インバウンドについて

□昨年12月、訪日旅行客がコロナ前を超えて過去最高の273万人となった。JTBは2024年には過去最高の3310万人と予測している

■インバウンドの増加傾向は好材料である

【論点】 世間動向について

□経団連は今年は昨年以上の熱量と決意をもって、物価上昇に負けない賃金引き上げを目指すとして述べている。政府からも昨年を上回る水準の賃上げを要請されている。24春闘は他の企業も大幅賃上げの動きが出ている。経団連の中核企業として、このような世間動向は把握しているのか。また、判断の要素とするべきだ

■世間の動向、社会的な動向も考慮していく

【論点】 株主配当について

□2023年度の株主配当金は100円、2024年度は25円も値上げした。配当金の金額としては100億円程度増えるではないか

■社員へはこの間、厳しい経営状況ある中で、でき得る処遇改善を行ってきた。そのバランスを見ながら株主にも還元していく。